

## 令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	46	学校名	静岡県立藤枝東高等学校	校長名	佐野文子
------	----	-----	-------------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
1	学ぶ意欲を喚起し、主体性を伸ばす授業や指導の改善等を進めることで、生徒の学力向上を図る。	アンケートで「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する授業が行われている」と回答する生徒・保護者が85%以上	「学ぶ意欲を引き出す学習指導が行われている」と回答した生徒84%、保護者87%。 「学力が向上する学習指導が行われている」と回答した生徒91%、保護者89%。	A	グループ活動や探究活動を取り入れた授業を行ったり、ICT機器の活用をしたり、工夫した授業を行っている成果が現れたと思われる。今後は、より主体的に学習に取り組める生徒の育成を意識した授業が展開できるように継続していきたい。
		公開授業を年間2回以上実施した教員100% 授業参観を自教科、他教科問わず年間4回以上実施した教員100%	教員全員が公開授業を年間2回以上実施することができた。授業参観を4回以上実施した教員は全体の70.7%。	B	授業公開は、管理職の授業参観期間に合わせて全教員が年2回実施した。授業参観は、特定期間以外でも気軽に参観できる雰囲気を作り、全教員が年間4回以上参観をできるように工夫したい。
		授業においてICTを活用した教員100%	すべての教員が、ICT機器を活用して授業や演習を行った。	A	ICT機器を使用することを目的とせず、文房具としての活用ができてきている。教員の情報リテラシーを高めていきたい。
		「適切な量の課題が出されている」「学ぶ意欲を引き出す、学力が向上する補講が行われている」と回答する生徒75%以上	「適切な量の課題が出されている」79%～87%。 「学ぶ意欲を引き出す補講」78%↑(昨年度72%)。 「学力が向上する補講」87%↑(昨年度82%)。	A	課題の量については、他教科との兼ね合いも考慮している。 補講においては、モチベーションの異なる生徒たちの興味関心を高められるような講座設定や教材の工夫が必要である。 土曜講習への参加者減少があり、周知方法の改善も必要である。
		「教科への関心・意欲が高まり学力や技能の向上が実感できた」と回答する生徒80%以上	教科への関心・意欲が高まり学力や技能の向上が実感できた」と回答する生徒80%～89%。	A	数値的に高い回答が得られたことは評価できるが、観点別評価の妥当性を検討、整合性を図り、適切な評価に繋げなければならない。
		「8つの力」の伸長が自覚できる生徒100%	「8つの力」の伸長が自覚できた生徒88.3%	B	グループワーク、ペア学習、プレゼンテーションなどを通じて、様々な力を身に付けている。「伸長できた」の問い方の工夫が必要。

様式第3号

2	生徒が高い志を抱き、その進路実現を果たすための適切な指導を行う。	「志を育む指導が行われている、進路に関する情報が適切に提供されている」と回答する生徒・保護者 85%以上	「志を育む指導が行われている」と答えた生徒 84%、保護者 84%。 「情報が適切に提供されている」と答えた生徒 84%、保護者 78%。	B	生徒との面談、模試結果の振り返り、進路指導など、対話による関わりによって「志」は高められている。 生徒と保護者の認識の違いについては、進路指導の流れや内容を見える化するなどの工夫をし、細かく伝える必要がある。
		「進路実現に向けての学力向上、理解向上に役立った」と回答する生徒の割合が前年度より増加する	「進路実現に向けての学力向上、理解向上に役立った」との回答が 5%増加した。	A	新たに実施した夏季特別補講も非常に好評であったが、その他の補講においても、教員側が生徒の学力や弱点を分析したり、受講しやすい講座を設定したりという工夫が必要。
3	様々な学校行事等における協働を通じて、多様性、国際性、豊かな感性、思いやりの心等を育み、人間性を高める。	図書委員による読書推進活動年 4 回以上 図書館を利用した生徒数が前年度よりも増加する。生徒と教職員による広報誌年間 50 回以上発行	推進活動 4 回。 広報紙の発行は 50 回を超え、貸出数も前年度を上回った。	A	これからも生徒への発信を継続することで、読書に親しむ姿勢を喚起する。 新校舎と共に新図書館が開館となるので、数値的な変化がみられるような指針を作成したい。
		「8つの力」の伸長が自覚できる生徒 100%	「8つの力」の伸長が自覚できる生徒 88.3%	B	100%ではなかったが、「8つの力」を意識できている生徒は多く、伸長はできているはずである。どう自覚させられるかが問題である。
		演劇鑑賞・文化講演会に参加した生徒の満足度 90%以上	大変満足とまあ満足に合わせて 90%を超えた。	A	評価の高い文化的行事である。工夫し、継続させていく。
		「部活動に意欲的に取り組んだ、活動内容や時間が適切である」と回答する生徒・保護者 90%以上	「部活動に意欲的に取り組んだ」生徒 93%、「活動内容や時間が適切である」と回答する生徒 87%、保護者 83%。	A	意欲的に活動することで、人間性を高めることが出来ている。県大会・東海大会での活躍も多くの部活動で見られた。
	校外活動への参加生徒数が前年度よりも増加する	生徒会や J R C 部等が中心となって地域社会貢献活動に取り組むことはできた。	B	委員会や部活動単位だけでなく、多くの生徒が、意欲的に参加できるような広報や提示をしていきたい。	
4		全教職員による街頭（登校）指導実施年 3 回 自転車による登下校中の事故年間 20 件以下	街頭指導は 3 回実施できたが、事故件数は 23 件であった。	B	事故件数は増加傾向にあるが、内容を見ると相手車両の過失による事故も少なくない。今後もヘルメット着用を含めて指導していく必要がある。

様式第3号

4	社会に主体的にかかわり、正しい行いを通じて、自立した社会性・公共性を身につける。	「高校生活について適切に指導が行われている」と回答する生徒・保護者が90%以上	「高校生活について適切に指導が行われている」と回答した生徒85%、保護者93%	B	保護者からは高い評価を得ている。生徒に求める規範意識は高めなければならないが、スマートフォンの使用など、検討の余地もある。
		生徒の参加数が前年度よりも増加する	部活動や教科での外部のコンクールや海外研修等への積極的な参加は見られた。	B	部活単位での参加は増加している。Cラーニングを使用して、個人への広報を行なったが、関心のある生徒との意識の差が大きい。
		いじめによる不登校及び生徒指導0件 「頼れる先生がいる」と回答する生徒・保護者が85%以上	「頼れる先生がいる」と回答した生徒91%、保護者87%。 いじめ対策委員会の事案が1件。	B	「頼れる先生がいる」という回答が年々増加している結果は評価できる。 いじめに関する認知を積極的に行ない、早期に適切な対応を求めている。
5	保護者・学校後援会・同窓会・地域等との連携の下、信頼され応援される学校づくりを進める。	「東高に入学してよかった」と回答する生徒・保護者85%以上	「東高に入学してよかった」と回答する生徒91%、保護者95%。	A	教員のみならず、外部機関との連携を図り、手厚い指導に心掛ける。
		「情報を適切に伝えている」と回答する生徒・保護者95%以上 地域の中学校への訪問年間3回以上 報道部生徒によるポスター及び卒業生等出演の学校PR動画の作成が実現する	「HPは学校の情報を適切に伝えるものである」と回答した生徒90%、保護者95%。	B	学校ホームページの制作自由度が格段に向上したため、それを活かした情報発信を今後も継続していきたい。 2年生の11%は「あまり当てはまらない」と答えており、その原因を探る必要がある。
		総会や各種行事の出席率50%以上 「参考になった(良かった)」と回答する保護者95%以上	PTA・後援会総会の出席率は40.9% 保護者進路講演会で「参考になった」80%。	B	総会については平日午後開催ということもあり、出席率50%をクリアすることはかなり難しい状況。引き続き行われたクラス懇談会の出席率は54.8%を考慮したい。
		100周年記念事業の内容策定70% 新校舎への移転完了	式典等の詳細が決まり、記念事業もほぼ決定した。 新校舎完成時期が延期されたため、移転は未完了。	B	令和6年度に向けて、職員及び生徒の士気を高めていきたい。
		「来校目的を達成することができて良かった」と回答する来校者100%	学校公開では、99.4%の参加者が目的達成できた。	B	本年度は学校説明会の部の内容を大きく変更したが、参加者には大変好評だった。来年度も生徒が本校の魅力伝えるような場面を設定したい。

6	より良い学習環境の整備充実と安心安全な学校づくりを進める。	「生徒の健康や安全に配慮がされている」と回答する生徒・保護者 95%以上	「生徒の健康や安全に配慮がされている」と回答した生徒 91%、保護者 95%。	B	新型コロナ5類移行への対応やSCを含めた教育相談対応などを丁寧に進めた結果だと思うが、さらにきめ細やかな対応に心掛ける。
		ゴミの排出量が前年よりも減少する。 「校舎、グラウンド等の施設や設備は適切に整備されている」と回答する生徒・保護者 80%以上	ゴミの排出量は昨年度比 30%減少した。「適切に整備されている」と回答した生徒 82% 保護者 87%。	A	次年度は、新校舎への移動が行われる。一足制への対応など、新たな課題が生まれると思われるが、協力して対応する。
		地域防災訓練の参加率向上 「災害・非常時の避難方法や連絡方法を承知している」と回答する生徒・保護者 80%以上	地域防災訓練の参加率は 39%。 「災害・非常時の避難方法や連絡方法を承知している」と回答した生徒 71%、保護者 80%。	B	本年度は防災計画書の見直し、災害用備蓄食料の更新を行った。来年度早々に、新避難経路の策定や防災備品の配置替え等、新校舎への対応が必要となる。 地域防災訓練への参加率向上のために、部活動を含めた協力を依頼する。
		情報セキュリティインシデント未発生	情報セキュリティインシデントは発生しなかった。	A	職員の個人端末からのクラウド利用による情報漏洩リスクに対して引き続き注意喚起を行っていく。
		教職員の時間外勤務時間が前年度よりも減少する	百問繚乱の利用により、採点業務が軽減されたが、必ずしも時間外勤務時間減少に繋がっていない。	B	テクノロジーの活用だけではなく意識改革が必要である。社会全体の価値観の変化もあり、学校に持ち込まれる課題が多すぎる。業務整理を進める。
		「校舎、グラウンド等の施設や設備は適切に整備されている」と回答する生徒・保護者 80%以上	「学校の施設や設備は適切に整備されている」と回答した生徒 82%、保護者 87%。	A	学校経営予算や維持修繕予算の執行にあたっては、優先順位を付け、教育効果が高いと認められるものから執行した。ただし、予算が潤沢ではないため、今後一層予算配分を工夫することが求められる。